

## 地域金融機関における貸出金利の裁量性について

大阪産業大学 石橋 尚平

当研究では、地域金融機関（または信用金庫）の資金運用利回りについて、シャープ・レシオを最大化させるベンチマークを設定した上で、その乖離幅の分散の対数値を、貸出金利の設定において、裁量によって決まる部分を示す値であると考えます。Cerqueiro, Degrysee and Ongena(2011)は Heteroschedastic Regression Model を用い、マイクロデータによる個々の企業への貸出金利を Rule（ルール）と Discretion（裁量）の部分に分けて分析を行っているが、当研究もこの手法を踏襲している。

同モデルは Mean Model ならびに Variance Model で構成されるが、当研究の Mean Model では 1989 年度から 2010 年度までの地域金融機関ならびに信用金庫のみのリスク調整済み資金運用利回りの値を用いて、ベンチマークを設定する。バブル経済崩壊後の長期不況・金融不安・デフレを経て、同ベンチマークのシャープ・レシオは興味深い変化を示している。

また、当研究の Variance Model では、個々の地域金融機関（または信用金庫）のリスク調整済み資金運用利回りのベンチマークからの乖離幅から算出した分散の対数値を被説明変数とし、個々の地域金融機関（または信用金庫）のどのような要因が、その金利設定の裁量を示す部分に影響を及ぼしているのかを考察した。